

令和 6 年度 広瀬図書館利用者懇談会 実施報告



- 1 日時 令和 7 年 2 月 5 日（水） 13 時 30 分～15 時
- 2 会場 広瀬市民センター2 階会議室
- 3 出席者 個人利用者 : 2 名
児童館 : 1 名
地域包括支援センター : 1 名

広瀬図書館 : 広瀬図書館長 他 4 名
丸善雄松堂株式会社 2 名
- 4 配布資料 ①令和 6 年度 広瀬図書館事業実績
②令和 6 年度 広瀬図書館アンケート結果
- 5 内容 1. 開会
2. 挨拶 広瀬図書館長
3. 自己紹介
4. 令和 6 年度 of 取組み (配布資料①)
5. 図書館アンケートについて (配布資料②)
6. 広瀬図書館へのご意見・ご要望等
7. 閉会

6 広瀬図書館へのご意見・ご要望等

ご出席者の運営評価、皆様から頂戴しましたご意見・ご要望は以下の通りです。

○図書館の利用状況について①

【個人利用者から】

- ・先ほど説明のあった利用者アンケートの結果では、私は 70 代ということで利用の多い層に入るのかなと思うが、私自身の利用は本や DVD の貸出を受けるということが中心であり不満を感じることもない。
- ・広瀬図書館を利用し始めた頃は、まだ指定管理者制度が導入される前だが、「古い本しかないな」という印象があり、図書のリクエストをすることもあった。新聞に書評が掲載された本を中心にリクエストしていたが、1 週間くらいで買ってもらえた記憶がある。
- ・全般的に、図書館で本を選んで借りたり、新聞に掲載されたような図書をリクエストしたりという形で 10～15 年間利用してきた。
- ・リタイア後は時間もあるので、テーマを設けて読書をするということをするようにしている。例えば、ウクライナの紛争に関することやトランプが大統領になったことなど、世界における経済以外の軍事的な対立、紛争がどんな風に起きてくるのかを理解するために、ロシアやウクライナの歴史に関する本を読むなどしている。図書館ではこういった本も揃えているだろうか。
- ・自分なりに考えたことをまとめて知人にプレゼンしたところ、分かりやすいと言ってもらった。こうしたことで自分の理解も深まったし、発表することで反応を得ることもできる。
- ・人口減少に関する本なども読んで自分なりの理解をしてきた。読書はその著者が価値観を文章として提供してくるものを、自分なりのスピードで読むことができるところに価値がある。
- ・WEB で検索すると 9 割方の読みたい本は仙台市図書館に所蔵されているので、他館から取寄せもらって読むことができ、私としては満足している。

【図書館から】

- ・ウクライナ紛争といった時事的なトピックに関する資料も購入しているが、特定のテーマ・トピックに関する資料を重点的に購入することは、バランスの観点やその後の継続利用という観点で難しい面もある。

○図書館の利用状況について②

【個人利用者から】

- ・自分自身は図書館で本棚を見て選ぶというよりは、読みたい本を予約してそれが準備できたら借りに来るというスタイルで利用している。
- ・最近では本棚の間を巡ることはないのだが、たまに市民図書館に行くと圧倒的な数の本があって、何時間でもゆっくりできるなど新鮮な気持ちを持ったりする。
- ・今の利用スタイルでは、とにかく予約をして待っていれば必ず提供してもらえるし、仙台市に所蔵のない本も購入や他県の図書館からの取り寄せで手元に届けていただけるので、本当に利用はしやすく、自分自身のスタイルとしてはすごく満足をしている。

○錦ヶ丘児童館を利用する子どもの読書状況について

【錦ヶ丘児童館から】

- ・意見ということではないが、児童館の子どもたちの読書状況について説明したい。児童館では子どもたちは自由に本を読むことができる。ただ、物語を読んでいる子は少なく、圧倒的に漫画を読んでいる子が多い。
- ・自らすすんで読書をするという状況ではないが、お話が好きではないということでもない。児童館職員が「読み聞かせをするよ」と声をかけると低学年の子たちは集まってくる。圧倒的に人気なのはやはりこわいお話。部屋を暗くして懐中電灯で照らすなどの演出をして読み聞かせをすると、子どもたちはとても楽しそうに聞いている様子が見られる。
- ・子どもたちが自分で本を読み、少しでもたくさんの本に触れていく機会を増やしていければと考え模索している。

【図書館から】

- ・子どもたちは確かに読み聞かせなどへの反応は非常に良い。ところが、今の小さな子どもたちは、本をめくることができない、めくり方を知らないということが多くいそう。読み聞かせてもらおうか、スマホで見るかのいずれかがスタートになるために、本をめくって読んだり、丁寧に扱ったりということがすごく苦手ということらしい。こうした話は小さなお子さんを相手に活動するボランティアの方からよく聞く。
- ・とっかかりは絵本ということになるだろうが、大人がただ読み聞かせるだけではなく、実物に触らせるということをしていないとなかなか難しいのではないかな。こうしたことが幼児の読書体験については一つの課題になっている。

【図書館から】

- ・錦ヶ丘児童館で子どもたちはいつでも自由に本を読むことができる状況なのか。
- ・錦ヶ丘児童館では本を何冊くらい所蔵しているか。

【錦ヶ丘児童館から】

- ・本を読むためのスペースがあり、いつでも自由に読むことができる。
- ・児童館は基本的に学校から帰ってきてからお迎えまで、何をしてもよい自由な時間である。
- ・児童館としてもたくさんの遊びを展開しているが、読書スペースにはマットが敷いてあり、本をどんな態勢で読んでも構わない。このスペースは本当に大人気で、子どもたちはコロコロしながら本を読んでいる。
- ・実際に数えたことはないが、絵本だけで100冊以上、漫画も100冊以上はある。主に地域の方がお持ちくださる寄贈で成り立っている。

○児童館が図書館から借りる絵本の選書依頼について

【錦ヶ丘児童館から】

- ・児童館からテーマを指定して依頼する形で、10冊くらいの本を選んでもらうことはできるのか。
- ・図書館職員に選んでもらった絵本を読むというのは、児童館職員とはまた異なる目線で選んでいただけるのが良いと思っている。

【図書館から】

- ・以前に貸出する絵本などを選ぶお手伝いをさせていただいていたように記憶している。テーマに沿って絵本などを選んでおくといったことは対応できるので相談してほしい。

○中高生に向けた読書推進の取組について

【個人利用者から】

- ・父がとにかく本を買う人で、幼い頃から本に囲まれて育ってきた。実家には一部屋本がぎっしり収まった部屋もあるのだが、これはどうやって処分するんだろうという思いから、自分が読む本はすべて図書館から借りて読ませていただいている。
- ・子どもが生まれてからは図書館と一緒に来ていて、子ども用の本を利用していた。行事にも参加したし、子どもは栗生小学校に通ったが、ブックトークにも来ていただいた。
- ・ただ、幼稚園から小学校くらいまでの年代に対しては、本に触れさせようとするプロモーションがたくさんあり、そこに様々な工夫を感じるが、中学生になると途端に忙しくなり、私の子どもも含め、中学校・高校では本当に一冊も本を読んでいないのではないかと感じている。
- ・授業で調べるための本の予約を頼まれることはあっても、自分で図書館に足を運ぶような時間もなく、本に触れる機会もなくなっている。
- ・ヤングアダルトに向けた取組などを見ていて、図書館側としてもこの世代に対する働きかけをしていきたいということは感じるが、実際には本当に本に触れない世代になってしまっていると思う。
- ・受験が終わったら「あれを読みたい」、「これを読みたい」といったことは言っているで、本を読みたいという気持ちはあるのだなとは思いますが、なかなかこうした世代へのアプローチというのは難しいと感じる。

【図書館から】

- ・中高生が図書館を利用しない、本を読まないという話は確かによく聞く。公共図書館側でも統計上から話題にはなる。しかしながら、中学生・高校生・大学生は学校に図書館があるはずで、第一義的には学校図書館がしっかりしないといけないとも思っている。
- ・学校図書館の利用状況は公共図書館では詳細には分からないが、勉強や部活に忙しいこともあって、わざわざ外に出て公共図書館を利用したり、本を読んだりといったことは、現実的に考えてあまりないのだと思う。そういった意味でも身近にある学校図書館を充実させることは大切。
- ・ただ、予算の関係があって学校図書館の蔵書数は必ずしも多くない。また、司書教諭が設置されていないなどの問題もある。それでも、居場所となる最も身近な図書館として、学校図書館をもっと意識する必要があると考えている。
- ・大学を卒業して学校の図書館を利用できなくなった世代の方が問題は大きいと考えている。生活する上でも働く上でも、図書館の利用価値はとても大きいにも関わらず、十分に利用されていないと感じている。
- ・広瀬図書館における中高生向けの取組としては、選書アドバイザー会議という取組を実施している。選書アドバイザーが作成に関わったブックリストは本日も配布資料としてお配りしているが、特にリーフレット版はかなりの枚数を作成して学校にも配布している。
- ・必ずしも公共図書館でなくても良いのかもしれないが、忙しい時期が続いたとしても本から完全に離れてしまうことがない形で学生時代を過ごしてもらい、いざ社会人となった際には改めて図書館を利用してみようと思ってもらえるような橋渡しができればと考えている。

○「本の福袋」について

【錦ヶ丘児童館から】

- ・「本の福袋」はおもしろい取組だと感じている。自分の視点だと借りる本が偏りがちなので、選んでもらった本を持ち帰って読めるというのは良い。
- ・「本の福袋」の実施は年に1回、年始のみなのか。

【図書館から】

- ・広瀬図書館での実施は年始のみである。
- ・仙台市図書館では各館同様の取組を実施しているが、太白図書館では年始ではなく年末に実施時期を変更している。年末年始のお休みに読めるようにということと聞いている。

【個人利用者から】

- ・「本の福袋」のファンで、始まった最初の頃から毎回借りている。家に帰って開けてみると、これは絶対私は手にとらない本だなというものが入っているので、お正月明けに楽しい時間を過ごすことができる。

○ぬいぐるみのお泊り会イベントについて

【大沢広陵地域包括支援センターから】

- ・私たちも若い世代と何とか繋がれないか、お子さんと何か一緒にできないか、というようなことを考えることが多くあり、図書館の取組を参考にさせてもらっている。
- ・宮城野図書館や山形の図書館でも実施されていると承知しているが、「ぬいぐるみお泊り会」について何かご存じだろうか。珍しい取組だし、とても素敵だなと感じている。何か情報をお持ちであれば教えていただきたい。

【図書館から】

- ・ぬいぐるみのお泊り会イベントについては、全国的にも図書館で実施されている。子どもたちのぬいぐるみを預かって、ぬいぐるみが図書館に泊まって本を読むなどして楽しむ様子を写真に撮って報告するというもの。
- ・ぬいぐるみを通して子どもたちの図書館への親しみを深めてもらうことを目的としており、最近どんどん広がってきているようだ。
- ・職員の勤務に関することや衛生面も考えなければならないが、実施している図書館が増えているのは確かである。
- ・図書館職員がぬいぐるみにおすすめの本を渡して、ぬいぐるみが選んできた本として貸出することもある。自分のぬいぐるみが選んできた本を読むという形での読書のきっかけ作りが目的である。
- ・利府町図書館でもぬいぐるみお泊り会を開催している。例えば、「ぬいぐるみが絵本をよんでるよ」だとか「図書館の中を探検してるよ」といった形で写真を撮り、翌朝にはぬいぐるみが選んだ本の貸出もしている。すぐに定員に達してしまう人気のイベントである。

【児童館から】

- ・ぬいぐるみだけでなく、実際に子どもが図書館に泊まれるようなイベントはあるのか。

【図書館から】

- ・利府町図書館では子どものお泊り会も開催している。
- ・利府町図書館のお泊り会では、夜になったらご飯を食べ、おはなし会を実施して、そのあとは好きな場所に毛布を敷いて寝てよいというプログラムで実施している。

【児童館から】

- ・そういったイベントは想像しただけで楽しいなと思う。それを企画する側はとても大変だとは思いますが、夜の図書館ということでワクワク感も増すし、子どもが一日中本に触れることのできる機会にもなる。

【図書館から】

- ・地域包括支援センターから「ぬいぐるみお泊り会」についてお尋ねをいただいたが、具体的に実施を検討しているのか。

【大沢広陵地域包括支援センター】

- ・高齢で介護を利用されている方の中には、望まないけれどもデイサービス、ショートステイを利用する必要がある方もいる。そういった方々はお孫さんに応援してもらえるととても頑張ることができる。
- ・小さな子どもがぬいぐるみを送り出して、お泊りしたぬいぐるみを迎え入れるというのは、何かその子のおじいさんおばあさんにとっても何か素敵なことが起こるのではないかと考えていて、開催時の勤務状況など具体的なことを知りたかった。

【図書館から】

- ・「ぬいぐるみお泊り会」の実施にあたり、職員が図書館に宿泊しているということはない。夜の図書館の雰囲気が出ればよいので、図書館閉館後の時間に必要に応じて超過勤務の扱いで対応しているケースがほとんどだと承知している。
- ・ただ、参加者が多くなると時間が長くはかかる。写真を撮って現像をする必要があるし、アルバムを作るといったことまでしていた例もある。やり方次第だと思う。

【大沢広陵地域包括支援センター】

- ・どのくらいの人数が参加するのか。

【図書館から】

- ・利府町図書館では12、3人程度の参加だったと記憶している。10人程度でも写真撮影、本選びなどがあるので2時間くらいはかかると聞いている。
- ・参加者とぬいぐるみの関係性や普段どんな本を読むかなども事前にヒアリングするなど、手間暇をかけている部分が実は多い取組でもある。

○「世代」を考えるきっかけとなる情報・知識について

【大沢広陵地域包括支援センターから】

- ・個人的な話をさせてもらおうと、『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』という本があったと思うが、私自身がタイトルどおりの状況になっている。その本さえもまだ読めておらず、時間をかけて楽しむということが日々の忙しさに追われてできなくなっているなど感じている。
- ・そんな私から見て、シニアの方々が読書を楽しまれている様子はとても良いなど感じている。大雑把な言い方にはなるが、豊かな老後の過ごし方のひとつだと思う。読み聞かせのボランティアをされてる方も多し、開放文庫のようなものをお作りになっている方もいる。
- ・2025年は団塊世代が一斉に75歳以上になるということで、「世代」を考えるということをしていきたいと考えている。
- ・図書館にはそうした情報や知識が詰まっているというイメージがあるので、何か世代に対して訴えるようなイベントがあると良いのではないかな。団塊の世代に限らず、例えば「他の世代がよく読んでいる本を知る」といったことが取組としてあれば、私たちとしてはとても参考になるし、とても楽しいのではないかなと思う。

○指定管理者のノウハウ活用について

【個人利用者から】

- ・広瀬図書館に期待したいのは、指定管理者として民間企業のノウハウを活用していくこと。マーケットの中で見ているノウハウをもっと活かしていけるのではないかな。マーケットで得た知見で図書館に対する興味関心を高めてくれるような取組を行ってほしい。

○配布資料①「令和6年度 広瀬図書館事業実績」について

【個人利用者から】

- ・参加者数の「子ども」とは中高生まで含んでいるのかどうか。
- ・また、それぞれの事業の目的に照らした成果としては、参加人数だけではない形での自己検証のようなことはやっているのか。例えば、そうした分析の中で人気のありそうなものをもっと伸ばすとか、図書の選書に生かしていくなど、どんな状況だろうか。

【図書館から】

- ・一部例外はあるが、事業報告中の「子ども」には中高生を含めて集計している。
- ・イベントに参加してくださった方には参加者アンケートの記入をお願いしている。検証というほど大げさなものではないが、アンケートに記入された内容を参考にしながら、事業自体の継続や内容の改善を行っている。また、受付に対する反応でも事業自体のニーズは把握できる。継続して実施している事業も多いが、中身としては充実させることができているのではないかと考えている。

【個人利用者から】

- ・広瀬図書館が対象としているエリアというのは旧宮城町と考えて良いだろうか。イベントなどの対象者が全体として何人くらいいて、そのうちの何%が参加をしてくれたのかの把握から、次の事業にもつなげていけるのではないかな。

【図書館から】

- ・旧宮城町エリアが主たる対象ということになると考える。
- ・一方で無料の駐車場が便利に使えるため、太白区からの利用も多い。ブックポストに返却される本の中には泉図書館の所蔵資料も多くある。

【個人利用者から】

- ・確かに駐車場があって寄りやすいので、茂庭などからの利用は多そうだ。
- ・それは私たちのような大人にとっての話にはなるが、やはり特に小学生や中学生に対して、読書習慣や本の持つ喜びを伝えていくことが大事だと思う。
- ・参加者数という数字だけでなく、実際の反応などからもっと伸ばすべきところを把握できるということはあると思うので、しっかりと見ていてもらいたいと思う。
- ・こうした報告は仙台市図書館で共通に行っているものなのか。

【図書館から】

- ・事業報告は共通の対応となっている。また、様々な意見の共有も行っている。

○図書貸出統計の分析・活用について

【個人利用者から】

- ・利用者アンケートの結果から利用はやはり貸出が中心ということで、その回数も相当な数であり、広瀬図書館だけでなく仙台市図書館全体の貸出履歴がデータベース化されているのではないかとと思う。
- ・こうしたデータの分析というのは行っているのかを聞きたい。また、そうした分析の結果としての傾向、各館の特性や年齢別・男女別の貸出傾向などが公表されているのであれば見てみたい。同時にそうした分析を踏まえて、図書館の活動を設定しているのか知りたい。例えば、購入する図書を選ぶ際にも生かせるのではないか。

【図書館から】

- ・図書館に関する最新のデータを掲載したものとして、図書館要覧を作成している。本日も最新の令和6年度版を配布させていただいた。図書館要覧にも貸出について概要を掲載しているが、分野毎の貸出冊数などは掲載しておらず、あくまでも全体の冊数など概要での分析となっている。

【個人利用者から】

- ・個人情報とならないような形で良いので活用していつてはどうか。

【図書館から】

- ・図書館のシステムで地域別、男女別、分野別といった形の貸出傾向の抽出は恐らくできると思うが、実際に分析を行っているかについては承知していない。どのような図書に対するニーズがあるのかを把握する方法としては、窓口でのリクエストやアンケートでの把握が中心である。

○高齢者など車を使えない場合の図書館利用について

【個人利用者から】

- ・ほぼ毎週車で利用させてもらっていることもあり、高齢者が車を使えなくなった時にどのように図書館を利用できるだろうということを考えたりする。バスという手段もあるが、料金がかかるし、できれば広瀬図書館を利用していきたいとも思っている。
- ・予約をして本を取り寄せてもらって借りるということを繰り返す利用のスタイルを維持したいと考えた場合に、自宅まで届けてもらうというのはなかなか難しいと思うが、近くの小学校などで受け取ることができるサービスがあれば、車が使えなくなっても読書を続けられるのかなと考えている。

【図書館から】

- ・移動図書館は現在 70 か所以上を回っている状況であり、更に増やすとなれば車両と人員を追加する必要がある。仙台市としては手一杯の状況だと思う。

【個人利用者から】

- ・移動図書館は駐車場などに停まって図書などの貸出を行っているが、車に積んでいるものだけでなく予約した資料を持ってきてくれるということはないのか。

【図書館から】

- ・予約された資料の貸出も行っているが、移動図書館で予約資料を受け取る場合は移動図書館の巡回時に予約をしていただき、それを次回以降にお持ちするという形になる。WEB で予約をした資料の準備ができれば、返却と合わせて予約資料を借りるというスタイルからは少し離れる部分もある。
- ・東京では図書を配達するサービスを実施している事例などもあったと承知している。
- ・電子図書館を活用していただくというのもひとつの方法かと思う。

【個人利用者から】

- ・移動図書館の巡回頻度はどのくらいなのか。

【図書館から】

- ・原則としては 2 週間に 1 回である。
- ・仙台市図書館では、移動図書館のほかに、予約資料の受取などができるサービススポットを設置している。現在は太白区中田、若林区荒井の 2 か所のみで、どんどん増やしていけるというものでもないが、なかなか図書館に行きづらいようなエリアにも図書館サービスを拡充していくための取組の一環ではある。
- ・同じ文脈で大沢広陵地域包括支援センター様におうかがいしたい。地域包括支援センターで関わっておられる方の中で、特に車を使われないような方が図書館を利用したいと考えた場合、どのような形で利用されているか。それとも実際には利用はできない状況なのか。

【大沢広陵地域包括支援センター】

- ・移動図書館の停車場まで行くことのできる方々については、既に移動図書館を利用されていると思う。そして、それができなくなれば、断念をされているというのが実態だと思う。
- ・一方、90歳を超える方が車で20分かけて行かれているようなケースもあり、こちらの立場からすると「危ない」という感じを持っているケースもある。私たちに止める権利があるのかと考えると迷うところではある。
- ・難しい面もあるが、有償でも良いのでそのためのボランティアさんがいると良いのではないかと感じる。限定的な地域によっては住民の方が有償ボランティアを担っているの、そのような地域であれば、代わりに本を借りてきてもらうといったこともできるかもしれない。
- ・車で移動が制限されると、楽しみというか、余暇の部分に充てられるサービスがすごく少なくなるなと感じている。

○カウンターに設置されているアクリル板について

【個人利用者から】

- ・広瀬図書館のカウンターにはアクリル板が設置されているが、やはり声が通りにくい。会話をする時にアクリル板を避けて話したりしていると、「意味がないな」とも思う。アクリル板は今後も設置していくのか。
- ・カウンターの中にいる職員の安心材料として必要なのかなとも思ったが、今後の感染症の状況によっては取り外してもらった方が図書館の方との距離感も狭まるのではないかと感じている。

【図書館から】

- ・カウンターのアクリル板（パーテーション）については、直近の館長会議でも話が出た。
- ・仙台市ではコロナの後に危機管理局から通達が出ているのだが、感染症対策としてはかなり緩和されたものの、「換気」と「人と人との距離」については引き続き実施することとされており、パーテーションをどうするかは各館に任せられている。
- ・「声が届きにくい」という意見がある一方、手指消毒液、検温器なども同様だが、撤去されたことを不安に感じる方もいる。また、図書館でも職員の安全面を考えるようになってきていて、パーテーションがあった方が安心だという声も比較的強くある。
- ・各図書館に判断を任されているので、広瀬図書館では設置を継続している。広瀬図書館のパーテーションはすぐに取り外しができるが、現時点において撤去は考えていない。

○図書館内の案内表示等について

【図書館から】

- ・利用者アンケートの結果に触れた中で案内表示の分かりやすさに対する満足度が低いことを説明したが、具体的に分かりにくさを感じたことがあれば教えていただきたい。

【個人利用者から】

- ・広瀬図書館にある資料を検索端末で探した時に、「書庫」などの職員に持ってきてもらう必要のある所蔵場所とそうでない所蔵場所の区別が分からないと感じたことはある。

【図書館から】

- ・確かに図書館職員は「書庫」なのだから職員にお申し出くださるだろうと思ってしまっている面があるかもしれない。もっともなご意見だと思う。